

浄水施設管理技士試験

傾向と対策で講習会

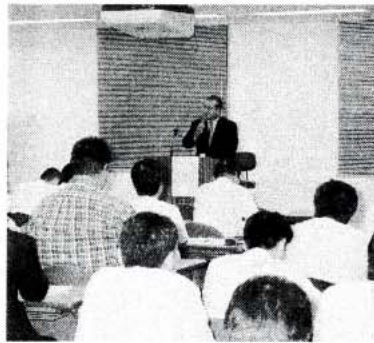
有資格者で受託体制整備

水研 O & M 会

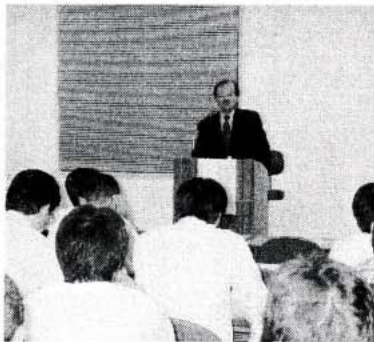


川崎委員長

水道O & M研究会（藤田賢二会長）は9月20日、東京・九段南の日本水道会館で水道浄水施設管理技士試験講習会を開いた。会員企業から3級を取得した技士ら約70人が受講した。日本水道協会は昨年度、水道（浄水・管路）施設管



試験概要を説明する羽根田課長



試験対策を解説する宇佐美技監

理技士試験をスタートさせ、また、浄水場の運転管理業務の民間への委託実績を増加に伴い、水道事業体からも有資格者による管理を依頼されるケースが多く

の増加に伴い、水道事業体からも有資格者による管理を依頼されるケースが多く、試験対策を解説する宇佐美技監が

なっている。

同研究会ではこうした要請に応えられる体制を整えるため、今回初めて水道施設管理技士試験に関する講習会を実施した。今回は浄水・管路のうち水道浄水施設管理技士試験が対象。主催した同研究会技術委員会の川崎信彦委員長が

「昨年の試験では、浄水、管路合わせて1級で86人、2級で449人が合格した。会員企業からは1級が14人、2級が71人合格（いずれも技術士取得者特例を含む）している。しかし、今後はもっと合格者を増やし第三者委託に十分応えようようにしたい。そのためにもしっかり受講してほしい」と開会挨拶した。

講演後には受講者から活発に質疑も出て、試験に対する関心の高さ、合格への意欲がうかがわれた。

講習会では、試験主催者である日本水協から羽根田卓一研修課長が制度の概容、1・2・3級技士の配置、昨年の試験結果等を紹介した。続いて月島テクノメンテサービスの宇佐美雄技監が試験の傾向と対策について解説。昨年の試験問題

を分析し、問題の種類や形態を分類し出題傾向を探った。また、論文の書き方などもアドバイスした。最後に合格者の体験談として、1級合格者の木部一夫明電舎維持管理ソリューション部太田分室技師兼総括責任者が、太田市水道局浄水場での受託業務、試験

の勉強法、参考書などを紹介。また、2級合格者で磯村豊水機工事部の稲垣敦史氏が試験に臨む心構えや資格取得の意義などについて語った。